

講義名	意思決定論				授業形態	
担当教員	上田 真由美	開講期・曜日・時限		前期 月曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
日常生活の中で、様々な側面で、意識的・無意識的に意思決定を行っている。個人的な内容に関する意思決定の場合や業務内容に関する意思決定の場合、また、個人で意思決定を行う場合や組織で意思決定を行う場合など、様々な「意思決定」が存在する。本講義では、客観的な意思決定を支援するため、意思決定の基本知識の習得および、意思決定の際に用いる各種手法の理解を目指す。						
到達目標						
意思決定の基本的な仕組みについて理解し、問題解決に必要なとなる統計手法を中心とした情報処理手法について習得する。また、処理によって得られた結果を読み解き、意思決定のための提案をできるようにする。						
提出課題						
時間内に練習問題を行う。また、レポート提出を課することがある。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
理解状況に応じて、時間内や次回講義時に講評・解説を行う。						
評価の基準						
期末試験(50%)、時間内課題およびレポート(50%)によって評価する						
履修にあたっての注意・助言他						
本講義では授業内容の理解を助けるため、Excelを用いた練習問題を行う。これらの問題に対して積極的に取り組む姿勢が必要である。また、時間内にできなかった問題は、次回の講義までに十分に復習をし、理解して頂くことを求める。						
教科書						
.使用しない。						
参考図書						
.なし。						

その他		
該当なし		
授業計画		
1. 意思決定とは (復習内容：講義資料を用いて復習を行い、授業内容の理解を深める(2時間)。時間内練習問題の復習を行う(1時間)。宿題に取り組む(1時間)) 2. 意思決定のプロセス (復習内容：講義資料を用いて復習を行い、授業内容の理解を深める(1.5時間)。時間内練習問題の復習を行う(1時間)。宿題に取り組む(1.5時間)) 3. 意思決定に用いる統計手法1 (復習内容：講義資料を用いて復習を行い、授業内容の理解を深める(1.5時間)。時間内練習問題の復習を行う(1時間)。宿題に取り組む(1.5時間)) 4. 意思決定に用いる統計手法2 (復習内容：講義資料を用いて復習を行い、授業内容の理解を深める(1.5時間)。時間内練習問題の復習を行う(1時間)。宿題に取り組む(1.5時間)) 5. 相関係数1 (復習内容：講義資料を用いて復習を行い、授業内容の理解を深める(1.5時間)。時間内練習問題の復習を行う(1時間)。宿題に取り組む(1.5時間)) 6. 相関係数2 (復習内容：講義資料を用いて復習を行い、授業内容の理解を深める(1.5時間)。時間内練習問題の復習を行う(1時間)。宿題に取り組む(1.5時間)) 7. 相関係数3 (復習内容：講義資料を用いて復習を行い、授業内容の理解を深める(1.5時間)。宿題に取り組む(1.5時間)。前半部分の資料や練習問題を見直す(1時間)) 8. 練習問題 (復習内容：練習問題の解説を見直し、自身で回答できるようにする(4時間)) 9. 回帰分析1 (復習内容：講義資料を用いて復習を行い、授業内容の理解を深める(1.5時間)。時間内練習問題の復習を行う(1時間)。宿題に取り組む(1.5時間)) 10. 回帰分析2 (復習内容：講義資料を用いて復習を行い、授業内容の理解を深める(1.5時間)。時間内練習問題の復習を行う(1時間)。宿題に取り組む(1.5時間)) 11. 回帰分析3 (復習内容：講義資料を用いて復習を行い、授業内容の理解を深める(1.5時間)。時間内練習問題の復習を行う(1時間)。宿題に取り組む(1.5時間)) 12. 最適化問題1 (復習内容：講義資料を用いて復習を行い、授業内容の理解を深める(1.5時間)。時間内練習問題の復習を行う(1時間)。宿題に取り組む(1.5時間)) 13. 最適化問題2 (復習内容：講義資料を用いて復習を行い、授業内容の理解を深める(1.5時間)。時間内練習問題の復習を行う(1時間)。宿題に取り組む(1.5時間)) 14. 最適化問題3 (復習内容：講義資料を用いて復習を行い、授業内容の理解を深める(1.5時間)。時間内練習問題の復習を行う(1時間)。宿題に取り組む(1.5時間)) 15. まとめ (復習内容：15回分の資料を振り返り、時間内に行った練習問題に回答できるようにする(4時間))		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
	ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
到達目標を達成することにより、情報を分析し、活用する力を身に付け、経済社会の様々な問題に対して解決策を提案できるようになる。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
演習時に説明と実際の操作画面が見えるよう、画面の表示を工夫する。 なお、受講者は毎回、PCを用いた演習を行い、操作結果について議論する。		
実務経験の有無及び活用		
該当なし		
備考		
授業計画は、受講者の状況に応じて、変更することもあります。		